

# 学年担任制

## 歯学科の学年担任制について

歯学部学務委員長 小野和宏

歯学部歯学科では、平成29年度の3年次編入学から2年次編入学への変更を機に、学年担任制を開始しました。これまでも学務委員会のもとに学生支援委員会を設けて活動してきましたが、さまざまなバックグラウンドをもつ学生に対して、学生支援委員会のみでは対応に限界があり、どうしても何かあった後の事後支援が中心とならざるをえませんでした。また、学問を教授することだけが大学教員の仕事であるとの昔ながらの偏った考えも、一部とはいえ存在することも否めません。そこで、教員の意識改革を促し、事後支援から事前支援への転換を図ることを目的に、学生サポート体制の充実・整備に取り組みました。

学年担任は、右の表に示すように、当該学年に授業科目をもつ分野とし、各分野の教授を責任者とした教員チームが日々の学習支援や生活指導を行なっています。また、学生の進級にともない、次の学年担任に学生支援上の情報を伝達するなど、学年間での教員の情報交換も行なっています。そのなかで、おむね4月、7月、11月に開催される学生と教員の懇談会は、学生の生の声を聞ける機会であり、有効な学生支援を実施していくうえで貴重な場となっているようです。詳しくは、以下の学年担任からの報告をお読みいただければと思います。

なお、1年生については、これまで通り、学務委員会ならびに学生支援委員会が対応しています。

学年担任制は始めたばかりの取り組みですが、学生の皆さんが楽しく有意義な大学生活をおくることができ、歯科医師を目指す者に求められる資質・能力をしっかり身につけるうえで、役立つものになることを期待しています。

学年	担任（分野）
2年	生体組織再生学 微生物感染症学 口腔生化学 口腔解剖学 口腔生理学
3年	硬組織形態学 口腔病理学 歯科薬理学 予防歯科学 う蝕学
4年	歯科矯正学 小児歯科学 包括歯科補綴学 歯周診断・再建学 顎顔面口腔外科学
5年	生体歯科補綴学 摂食嚥下リハビリテーション学 顎顔面放射線学 組織再建口腔外科学 歯科麻酔学
6年	歯学教育研究開発学

下線は平成29年度主担当分野

## 学年担任制について

口腔生化学分野 照沼美穂

平成29年度より歯学部歯学科の新しい試みとして、学年担任制が始まった。学生にとっても相談する先生がいるという点で心強いと思うが、我々教員側としても教員同士の交流が深まる良い制度ではないかとの1年を振り返って感じている。2学年の担任を持ち回りで担当するのは、口腔解剖学、口腔生理学、生体組織再生学、微生物感染症学、そして口腔生化学である。

担任としては、夏休み前の中間試験による学力判定や学生面談などの個別指導を通して、本格的に始まった歯学の勉強に学生がきちんと向き合えるようにと対応してきた。加えて学生へのサポート体制を充実させるべく、2-3ヶ月に1度は担任会議や講義担当教員会議を開催することにより、情報の共有と対応の是非を話しあってきた。今後はこれらの情報や経験を上学年担当の先生がたとも共有することで、より一層の学生サポートができるのではないかと考えている。

## 平成29年度第3学年担任

硬組織形態学分野 大島 勇 人

3年生の主任担任として、10月に人体解剖学実習試験結果をもとに事前支援が必要と思われた学生と面談を実施し、歯科医師になること、成績、学業上での問題点、課外活動、友人関係、生活上の問題点等について、聞き取り調査を行った。さらに、翌年1～2月に上記学生の2回目の面談とその他の学生全員と面談を実施し、上記と同じ聞き取り調査を行った。そして、学務情報システムを利用して面談項目を用いた学生実態調査アンケートを実施した（回収率97%：34/35）。学生の成績に関して、自分の担当科目の結果しか分からないので、他の科目の評価については自己申告の情報をもとに面談した。正確な面談を実施するには、GPA 評価等の客観的な学生の成績の把握が必要であると感じた。学生全員と面談を実施することで、日々の生活の中で学生が抱える問題点を把握すると共に、学生との距離感が近づいたことは担任制の効用であった。



懇談会のスナック

## 平成29年度 歯学科4年生クラス担任実施報告

歯科矯正学分野 齋藤 功

歯学科4年生のクラス担当は、歯科矯正学、小児歯科学、包括歯科補綴学、歯周診断学、顎顔面

口腔外科学の5分野で、責任分野（主担当）は順次交代で務めることになりました。初回29年度は、歯科矯正学分野が主担当になりました。主担当は、学生集会や懇談会の日程調整、内容と方法の検討および学生からの相談窓口を担当しますが、各分野から教授と協力教員1名にも随時協力いただくこととしました。

平成29年4月12日に第1回学生集会と懇談会、7月7日に第2回学生集会と個人面談、12月8日に第3回学生集会をそれぞれ開催しました。第1回学生集会では、クラス担任の役割、4年次の履修時間割、担当5分野の教育スケジュールならびに5年次に受験する共用試験、特にCBT合格に向けた心構えについて説明しました。集会後はスナックとソフトドリンクを提供し、学生と5名の教授および協力教員と懇談する場を設けました。第2回学生集会では、夏休みの心がけについて全体説明を行った後、5つの部屋に分かれ、教授一人につき8～9名の学生について5分間の個人面談を行いました。第3回学生集会では、第一学期総括試験の結果に基づきそれぞれの分野からの講評と担任制の感想を含めた質疑応答の時間を設けました。学生からは、CBTに向けた学習方法についての質問、懇談会や面談実施へのお礼の言葉がありました。

クラス担任制の実践により、学生の履修状況や支援が必要な事項を分野あるいは教員間で共有し、必要に応じて対応策について意見交換できたことから、本制度は学生、教員双方にとって有意義な取り組みと感じました。



## 学年担任制について

生体歯科補綴学分野 秋 葉 陽 介

当分野は平成29年度に5年次の学生担任を受け持ちました。本学5年生は、それまでより臨床を意識する実践的な学習が始まる時期で、後期からは臨床実習が始まります。6年間の学生生活の中でもとりわけ学習環境の変化が大きく、かつ意識改革が必要な時期でもあります。したがって、学生との懇談会を前期が始まって間もない時期の5月、臨床実習が始まって間もない12月、および臨床実習に慣れる3月の3回行うこととしました。5月には担任制度導入の経緯とその概要を説明し、12月には再度クラス担任の役割を詳細に説明した上で、意見交換を行いました。この日には、その後に本教室員全員を交えて、リフレッシュルームにて懇親会を催しました。3月の懇談会は事前に学生に無記名のアンケートを実施し、学生生活、学習などに関する悩み事、相談、質問等を受け付け、その内容に教室員が答えるという形で実施しました。

### 歯学部学年担任制について－6年生：歯学教育研究開発学分野・臨床実習ヘッド担当－

歯学教育研究開発分野 藤 井 規 孝

この歯学部ニュースに毎年学生からの報告が掲載されておりますように、歯学科のカリキュラム

では5年生の10月から6年生の10月まで臨床実習が組まれており、学生は医歯学総合病院歯科において実地に歯科医療を学んでいます。近年、文部科学省の指導の下、全国的に診療参加型すなわち学生が現場で診療に加わる臨床実習の整備が進められていますが、本学の臨床実習は担当医として診療に参加する学生を教員が指導する形で伝統的に行われており、大いに注目を集めています。このような臨床実習を運営するために指導教員同士あるいは教員と学生の連絡や情報交換は必要不可欠ですが、歯学部では以前より毎月臨床実習実施委員会を組織し、毎年のヘッドインストラクターと歯学教育研究開発学（病院歯科総合診療部）がとりまとめを担当してきました。この委員会では臨床実習に関するあらゆる事項が報告・検討され、学生との連絡会を開催して臨床実習を履修する学生のサポートを行っています。

